

コヴェントリー Ⅱ サイクル劇 (XIII)

橋 本 侃

第十六演目 羊飼いたちの礼拝

〔天使ガ羊飼イタチニ向カッテ「イト高キ所ニハ神ニ栄光アレ」ト言ウ。〕

写本左八十八頁

(1)

天使 天上の神に喜びが、

そしてまた、地上の人間に平和が、ありますように！

一人の子が日の光りの元に生まれました。

この子をおして、多くの人が罪の縛めから解き放されるであろう。

秘蹟には七つのものがあり、この子の傷をおして

得られるであろう。

それゆえ、ここに喜びに溢れた歌を歌おう。

友愛の若枝キリストが今や見つかったのだ。

高き所にまします神は

人間の魂の回心を喜ばれておいでだ。

人間が犯した罪に対する癒しを、神はもうすでもたらされている。

平和は人間にもたらされた、

神の巧みな力によつて。

(2)

羊飼いいー 友だちのモンフラス、モンフラス！

輝く大きな光りを見たぞ――

あんな不思議な徴しを見たのは初めてだ。

夜空に一つの形を成し、

お日様の光よりも輝きながら、

この王国の上に現れたのだ。

ベツレヘムの上にさえ、

三回も輝くのを見たぞ。

(3)

羊飼い二 その声は兄弟のブスラスだな。

俺もまったく同じ不思議な現象を見た――

神の慈しみの徴しだと思ふ、

以前にも光り輝いて現れたという。

バラムが預言している――

空に一つの光りが輝くであろう、

マリアという乙女から

一人息子がベツレヘムに生まれた時には、と。

(4)

羊飼い三 声は小さいが、

ぼくはモーセと呼ばれる羊飼いだ。

十字架の話

モーセの律法の中で聞いている――

乙女から赤子が生まれ、

やがて木の上で八つ裂きにされるだろう。

見捨てられていた人々を救ったことで、

八九頁(25)

その子は殺されるであろう、と。

(5)

羊飼いいー バラムが預言している――

空に一つの星が輝くだろう。

ヤコブの血族から出たその子は多くの人々を贖うだろう、

その輝かしい血によつて。

その血が流されることになり、

わしらを悪魔の恐れから解き放つだろう。

行いにおいてもつとも立派な指導者として

その子が十字架上で死ぬことによつて。

(6)

羊飼いいー アモスは穏やかな調子で預言している――

バルサム樹の香りよりも甘い果実であるその子は、

死ぬと、俺たちの魂の死をも殺してくれ、

俺たちをみんな地獄から引き出してくれる、と。

それゆえ、あの光りは俺たちよりも先に行くのだ――

その子が生まれ、

見捨てられていた者を救うことの徴しなのだ、
預言者たちがかつて告げたように。

(7)

羊飼いの三 預言者ダニエルは次のように言っている――

賢い神がぼくらを苦しみから救い出す。

神よ、あなたは光り輝く天を開け放ち、

一人の乙女と関わりを持たれる、と。

この預言は今や成就された。

キリストがぼくら人間の資質を取られた。

だから、人類は喜んでしかるべきだ、

預言者たちがかつて言っていたように。「ココデ、羊飼イタチハ「イト高キ所ニハ神ニ栄光アレ」ト歌ウ。」

(8)

羊飼いの一 ブズドラスの預言は見事に成就された。

さあ、急いであの光りが導くままに出向いて行こう――

寝床の上で輝いている赤子を目にできるように。

わしらを苦難からきつと解き放してくれるだろう、

どんなに驟雨が降ろうが、身震いなぞしないですむ。

さあ、出かけよう、ベツレヘムの小屋に向かつて、
あの美しい咲きたての花を見に、
心にあの柔和な乙女を思い描きながら。

(9)

羊飼い二 力を一杯出して、あの星に付き従って行こう、

歌って、笑って、大いに楽しみながら。

そして、喜びを込めて、その立派な人を拜もう、

主は人間の資質を持たれている。

先を急いで、

その赤子をしかるべき態度で崇めよう。

楽しい歌の調べに乗せて、

この歌を歌い終わろう。

九〇(75)

〔ココデ、歌イ終ワルト、天ノ星ハ消エ、羊飼イタチハきりすとノ元へ赴ク。〕

(10)

羊飼い一 ああ、なんと見事だ、歌の調子はうまく行った。

歌声は空の上まで届いた。

わしの声は実にいい声をしていた――

70

80

お前のは、エコ、エコ、エーコーだった。

(11)

羊飼い二 いやいや、そんなでなかつたぞ。

俺こそ、うまく歌った——

思うに、うまく歌つたぞ。

エコ、エーコ、エーコー、と。

(12)

羊飼い三 さっきの歌はぼくの耳に「栄光」と聞こえたよ。

それに、その後で、ぼくらに言つたぞ、

「力ある王子とられる子どもがおられる」と。

ぼくの忠告に従つてくれるなら、みんなでその子を探しに行こう。

(13)

羊飼い一 おめでどう、花の中の花よ、見つけられるもつとも美しい花よ、

おめでどう、真珠の中の真珠、貴重な至高の薔薇よ、

おめでどう、花壇に咲く盛りの花よ——われらは解き放されるのだ、

血が流れるあなたの傷と、賢明な業績によつて。

おめでどう、もつとも偉大な神よ、地に伏してあなたにご挨拶します。

貪欲な悪魔は猪のようにもだえ苦しむだろう、

広く口を開けたあなたの傷をとおして、この世の人々を救い、

たくさんのお戦利品を持たせて、人間を天国に据えてくださる時には。

あなたを愛することはわたしの喜びです。

おめでどう、美しい花、罪に捕らわれていない花よ、

三位一体から放たれた光よ、

おめでどう、わたしたちの祝福をぜひ受けてください。

おめでどう、目にもっとも美しく映える乙女よ！

(14)

羊飼い二 おめでどう、森で見つかるどの花にも優れる花よ、

おめでどう、われらの親族となられたキリストよ、

おめでどう、われらに幸福を勝ち取らせてくれる造り手よ、

おめでどう、たしかな勝利者よ、

おめでどう、創造者で、友よ！

おめでどう、悪魔を破滅させる者よ！

おめでどう、われらの資質を持たれた者よ、

おめでどう、楽園の王子よ！

(15)

羊飼いの三 おめでどう、身を低くする、どの王侯にも優れる王よ、

おめでどう、誰の親族かが分かつてみれば、どの王たちにも優れる王よ、

おめでどう、悪魔を破滅させる端正な騎士よ、

おめでどう、すべての花という花よ、

おめでどう、創造者よ、

罪に縛られた肉体を解き放してくれる方。

おめでどう、動物小屋に入れられ、

飼い葉桶の中にいますあなたよ。

(16)

ヨセフ 野山に行く羊飼いの皆さん、

だまっていないで、

意のままにおっしゃってください——

多くの人々に向かつて

どのように神がお生まれになったかを、

この嬉しい朝に。

見捨てられていた者たちを

神は見出されたのです。

(17)

羊飼い一 われらは伝えましょう、

野と山と、至るところで、

地獄で苦しむ魂を救われる方が

昨夜、お生まれになったことを。

永遠の喜びを伝えましょう。

この上もなくずる賢い悪魔たちを

抹殺するであろうと――

神の権利に齒向かう奴らを。

(18)

羊飼い二 さようなら、喜びの赤子よ、

さようなら、可愛い主よ、

両足に接吻をして、あなたを崇拝します。

あなたに向かつて膝を折ります――

このように片膝を突いて、あなたを崇拝します。

この世の人々が皆、あなたの誕生を喜びますように！

九一 (135)

さあ、お別れです、偉大な力を持たれる主よ、
そうなのです、さようならなのです、すべての者の王よ。

(19)

羊飼い三 お別れをするのはぼくが最後ですが、

可愛い子、悪く取らないでくださいね。

さあ、美しい赤ちゃん、すこやかに育ってください。

美しい子、良い日を送ってください！

さようなら、ぼくの愛しい子よ、

君こそ本当に美しい子だ。

さようなら、ぼくの主、ぼくの愛しい人、

さようなら、貧しく生まれた方！

(20)

マリア さあ、羊飼いの皆さん、お大事に。

あなた方の表敬訪問と歌にたいして、

わたしの息子は天国でお会いすることで、あなた方にお報いし、

良い終わりの時をあなた方にふさわしく与えましょう。

一同 アーメン。

〔左九一頁——後年の写字者による数行以外は空白。〕

第十八演目 東方の三博士の礼拝

写本九二頁

(1)

へロデ　かくも豊かな王国の偉大な領主として、

俺は王として支配するのにふさわしく、すべての領地の支配者として、
統領としての俺に匹敵できる領主はいない。

俺の遣り方よりも永遠に続き、優しく美しいものはない。

(2)

美しさと大胆さにおいて俺は誰をも永遠に凌ぐ。

俺の力で悪魔を打ちのめして地獄へ落とす——

なぜなら、俺は天と地の両方の王であるからだ。

(3)

俺は光り輝く黄金を身にまとう、この上なく立派な王である。

そのとおりだ、この上なく馬上豊かな御仁でも誰でも、

俺の意思一つで大地に這わせてやる。

(4)

そのとおりだ、立派な衣服で、この身を俺にふさわしく包んでいる。

礼節を十分にわきまえ、博識ゆえに立派な騎士たちよ、

俺の御殿へ直ぐに通してやることをお前たちに約束する。

大胆なる諸侯よ、ちゃんと付いて参れ、

これが俺の王宮に至る道だ。

(5)

俺は雄々しく馬から急いで降りて、

高殿へ急いで参ろう。

喜びの楽隊たち、音高らかに勢い良く吹き鳴らせ、

俺が部屋に行き、着替えを済ます間は、〔退場。〕

(6)

王一 ようこそ、騎士のお二方！

遠く御国から馬を駆って来られたのですね。

お二人の贈り物が見えるようだ――

われらの救い主を探しておられますな。

わたしは遠くサバから来ました、
あの明るい星の輝きに付き従つて。

一人の子供の血がわれらを貴くも贖うでしょう、
動物小屋で生まれた子供が。

(7)

わしの名はバルサザー王です。

預言の文言なら良く承知しています。

それゆえ、遠い道をとつて来たのです、

乙女の生んだ子供を捜すために。

なぜなら、御子は大地の塵から人間を造られた

天の国の王なのです。

御子に純金を捧げよう――

当然の理であると考えるからです。

(8)

王二 わたしの名はメルキザールと知られています。

わたしの心には熱い愛が隠れています、

寝床の上に横たわる盛りの花に向ける愛に、

飼い葉桶の傍で生まれた方への愛に。

タルジアにおいて、わたしは冠を被る王です。

堤と川岸を経て、

多くの町を通って旅を続けてきました、

わたしの主の愛を勝ち取るために。

(9)

芳香を持って主を探しに来たのです。

すべての司祭の始祖となられる方なのです。

その輝く血がわれらを救済してくれるでしょう、

束縛からわれらを解放してくれましょう。

その子は司祭に選ばれるでしょう——

すべての徳が備わっていることが分かるからです。

その子は父の美しい胸に向かつて

芳香を焚くでしょう。

(10)

王三 わたしはイポタンとアルカージで、

栄誉の座にあると知られた王です。

賢い風貌の子供を捜すために、

このように遠くまでやって来ました。

わたしはヤスパーという名で知られています、

わたしが所有している多くの国々で。

吹き始めた厳しい突風の中を

あの星の後に付いてやって来ました。

(11)

贈り物として没薬を持ってきました——

確かに、苦いお酒です。

なぜなら、その子はひどく殴られることになるでしょう——

その身は乙女の肉に包まれていたのですが。

ひどい木の上に縛り付けられることになるでしょう。

人間と同時に全能の神なのですが、

その肉体はひどく殴られ、引き裂かれるでしょう、

その血がことごとく流れ出るまで。

(12)

ヘロデ さても、豪華な衣装を着けた王として俺は治めている、

鎖帷子と王者の衣を身に着けて。

激打を振るって王侯たちを打ち倒してやる。

わしの所業は昼間には大胆だと思われている。

白パンを食らう奴らを滅ぼしてやる——

その中に秘蹟がこもると馬鹿どもが言っている。

俺に匹敵する君主はこの世界にいない、

無知な奴ら愛するような者たちを傷つける君主などは。

カケスよりも陽気に、

俺は力の強い泥棒たちを刺し殺す、

われらの律法を破る奴らを殺すのだ。

そういう奴らに存分に痛い思いをさせてやり、

囲いの中に追い込んでやる。

(13)

俺は浮き織りのコートを羽織る王だ。

王冠を戴く残酷な王と知れわたっている。

ローマ皇帝の元で、俺は厳肅な王座についている。

馬鹿どもには悲嘆の種を蒔くつもりでいる。

男の子たちは今、一人の悪い王のことを誇りに思つてしゃべくつて——
動物どものすぐ脇の寢床で産まれた、なんぞと自慢話が吹聴されている。

そんな乳呑み児は摘みとつて、ただの暮蛙であることを証明してやる。

左九三

盾と槍とで苦しめてやる、

俺の騎士たちに隊列を組ませ、

90

その悪餓鬼を殺させてやる。

地獄の立派な王侯マホメットにかけて言う、

奴の命なぞ辛い死に目に遇わせてやる——

こんな脅し文句は俺をきつと打ち倒すだろうが……。

(14)

大胆な家令よ、

95

国中を歩いて、

賢く観察せよ、

辺り一面を、

何事か

お前たちの王である俺を苦しめるようなことがあるかどうかを。

100

報せを持って来い、

恐るべき事がなにかあれば。

(15)

副官 王冠を戴く王様、

この町から出て、

褐色になった堤の辺りに

留まっていますよう。

そして、抜け目なく耳をそばだてて、

西も東も、至る所で、

どんな話が

噂として広まっているかを聴き取りましょう。

(16)

〔副官ハ三人ノ王ノ所へ行ツテ言ウ〕 三人の王様方、

この木の下で、

この国で、

留まられようとなさるのは何ゆえでしょうか。

へロデは王ですぞ、

あそこの屋敷の。

王の邸宅へ、

どうぞいらつしやいませ。

(17)

王― それでは、われらを皆、連れて行ってください、

王の大広間へ。

どのような具合になるか、

われらはあなたにお願いする、

知恵を働かせ、うまく取り計らつてくださるように。

一人子はわれらに知恵を授け、見分けさせてくれるでしょう、

あの輝く星の光りのもとで、血肉を持った

罪に捕らわれていない神の果実がどれかを。

(18)

副官― 今この瞬間に、おたどりください、

この道筋を、

円形の城まで。

あなた方にお教えしましょう、

どこに堂々と王がましますかを。

丁度この時刻では、

王は贅を尽くし、誇らしげになっておいでだ——
力は次第に豊かになっておいでから。

(19)

玉座におられる王様は、

直ぐにここに見えられます、

石畳に沿って。

〔ヘロデに向かつて〕三人の王たちが

ここにいらつしやいました。

どのような心積もりなのか、

どちらにいらつしやるつもりなのか、

わたしには分かりません。

(20)

ヘロデ 三人にぜひとも所望しよう、

奴らが持つものを。

もし気が狂っていたり、

狂うつもりなら、

奴らから略奪してやろう、
 奴らの知恵をびつくりさせて、
 奴らの頭をどやし、
 奴らの血を流してやろう。

(21)

王一 ご機嫌よろしゅう、いと高き座におられる王よ、

ご機嫌よろしゅう、あなたの宮殿の直ぐ近くまでやって来ました。

ご存知ではないでしょうか、

かの利発な子がこの近辺で生まれたことを。

若い乙女から生まれました——

どの王をも凌ぐ王になれましょう。

われらはその可愛い児を探しに参りました——

ぜひとも敬つて礼節を尽くしたいのです。

(22)

王二 バラムが預言しています——

とてもきれいな星が

乙女マリアの上に輝き、

ヤコブの親族の子供ですが、

一人の子供が生まれ、この付近にいるのです——

乙女の体の中で花と咲いたのです。

一つの星が空に忽然と現れ、

沼沢に沿って、われらを導いてきたのです。

(23)

王三 その星は東の国からわたしたちを導き出しました、

生まれが一番良い王の直臣を探すようにと。

その子はおもつとも力ある王となりましょう、

預言で語られたように。

わたしたちは疲れ切っています——

王様、ご好意にすがりたいのです。

わたしたちに教えてください、

そのかわいい子がなんとという町に住んでいるのかを。

(24)

ヘロデ王 お前たち三人の王は、順序良く述べてくれたが、

今度は、そんな下品な言葉は止めなさい。

左九四 (175)

そのような物言いは、

俺の王国ではしゃべられたことはない。

俺は位の高い王であるから、

俺の上になんびとも置かせない。

俺には、フロリン金貨と自由な禁獵地、

庭園と水の澄んだ養魚池がある。

(25)

だが、お前たちは探している奴を見つけに行け。

そして、他人を癒すとかいう奴だと認めたら、

そいつを見つけ出したら、お前たちに頼むのだが、

俺の所へ戻って来い。

そうしたら、喜びもし、乗り気にもなって、

皆がそいつを礼拝するように取り計ってやろう。

そいつを直ぐに見つけたら、崇敬を込め、

膝を折って、崇めてくれよう。

(26)

それゆえ、王のお前たちに願う、

旅を終えたら、

同じ道を取って返し、

真実を俺に伝えてくれ。

旅はそのままにして、俺の所に来て話してくれ。

そうしたら、充分にお礼をしよう——

黄金、宝玉と、豪華な衣服だぞ、

その衣服には値段の張る毛皮と金を掛けた毛の縁取りがしてある。

(27)

王—— 王様、ご機嫌よろしう——

わたしは行きます、

探しに、

力ある主を。

その主こそは

われらの癒し手です。

(28)

とても厳しい王様、

野原と羊齒の生い茂る場所を通過して、

わたしは行きます、

一人の王を探しに。

その王は留まっておいでだ、

悲しみのうちに。

(29)

王二 われらがその王を見つけたら――

とても優しいわれらの王を

乙女の傍らに見つけたら、

王と女王の元から、

われらは戻ります、

今日のこの日に。(ココデ、三人ノ王タチハ出立スル。)

(30)

へロデ王 ああ、なんたる話を聞かされたもんだ！

俺の残酷な膝を前にして、

赤子がそんなに大胆にふるまうことになろうとは、なんたることだ！

産まれていけば、動物にでもなっちまえ！

奴は幼く、俺は年寄りだ。

高い位の豪胆な王である俺は、

今日にも、騎士たちを呼び集めてやる。

奴らが俺の所へ戻って来たら、

俺の神々を呼び起こしてやる。

偽りを言つて黒い悪魔に呪文をかけさせ、

奴ら王たちの視野を曇らせてやろう、

堤と乾いた谷の脇を辿つて

こつちの道へ来たら、視界が暗くなるように仕向けてやる。

(31)

王一 われらの主、われらの癒し手を探しに行きましょう。

どの道を行けば良いか、あの星が直ぐに教えてくれるでしょう。

われらを悪より救つてくださるように、ここで神に願ひましょう、

われらが神の喜びに到達できますように。

神の慈しみを祈り求めます。

〔ココデ、三人ノ王タチハ贈リ物ヲ携エ、いえすノ元ヘ行く。王一ガ言ウ。〕

(32)

王一 ご機嫌よろしゅう、寒々としたお召し物の王様、

ご機嫌よろしゅう、乙女マリアの乳で育てられる方、
ご機嫌よろしゅう、このように黄金を携え、嬉々としてやって来ました。
知恵の詰まった書が記しているとおり、

黄金はもつとも高貴な鉱石ですので、

王侯が身に付けるのにもつともふさわしい。

この館であなたに黄金を捧げます——

あなたをわたしの主と認めます。

(33)

王二 主よ、わたしは膝を折り、

芳香をあなたに捧げます。

高い位で第一番目に位置される方になられましょう。

あなたほどに力ある者は他に誰もいません、

人々が神の館で見るほどには。

あなたは三位一体の神と敬われるでしょう、

なにもにも捕らわれていない一人の神の中にある三つの人格です——

すべてが一人の力ある主なのです。

(34)

王三 主よ、あなたの寢床の脇にひざまずきます。

あなたは乙女の肉に隠れていらっしやうた。

あなたの名前は広く唱えられるでしょう。

すべての王たちを超える王よ、

あなたに苦い没薬をお持ちしました。

なぜなら、厳しくあなたは殴打され、

あなたの命の終わりは厳しい死となりましょう。

それゆえ、わたしは嘆いているのです。

(35)

マリア 心優しい王様たち、

神が悪魔から

あなた方を守ってくださいるように！

あなた方が家路をたどられ、

宮殿へ着かれますまで、

お気をつけられますように。

(36)

王一 われらには場所が分かっていますから、

これからヘロデ王の元へ赴きます。

われらは口にした言葉に縛られています——

われらは戻ります、という言葉に。

直ぐに行つて、われらの口上を述べ伝えます。

なぜなら、われらの主と救い主を見つけたからですから。

王にはすべての真実を伝えましょう、

女王から王が生まれた顛末を。

(37)

王二 頭が鉛の塊のように重たい。

しかし、眠るのが怖い、

気分がますます悪くなるのではないかと思うからだ。

両手足と脇腹が重たい。

この堤に身を横たえよう、

あの明るい星の下で。

(38)

王三 兄弟よ、あなたの傍らにわたしもぜひ横にならせてください。

このままだと、この道を進んで行けないでしょう、

眠っておかないと。

若い王と、その母マリアよ、

すべての悪からわたしたちをお救いください。

キリストよ、今こそ、われらを救い、守ってください。

(39)

王一 体がとても重いので、

一口でも酒を飲まないと、

ほんの少しの間も眠れないだろう。

踵も足も重い。

藟草と木の根にも、けつまずくに相違いない、

一マイルも行かぬうちに。

〔ココデ、王タチガ眠ルト、天使ガ現レテ、言ウ。〕

(40)

天使 丘の上に横たわる王たちよ、

ヘロデの意思に従って行動しないように――

もし行くとなると、殺されるに決まっている、

今日か、今晚にも。

九六 (285)

この報せは、わが主があなた方にもたらしたもの——
豪華な衣装に身を包んだあなた方に、休むように、と。
そして、起きて、住まいに戻って行く時には、
正しい道を通って帰るように、と。

(41)

目覚めていても、眠っていても、

わが主である神はあなた方を守られる。

あなた方は良い時に眠りに就いて、

休みを取りました。

へロデは悪魔を当てにしている——

〔写本左九六頁——全頁空白〕

悪魔に託して、

九七

真つ黒い霧の中であなた方を傷つけようとしている。

わが主である神は

あなた方を賓客として喜んで向かい入れるでしょう。

(42)

それゆえ、王たちよ、起きたら、

堅実な道筋を通って帰りなさい。

そこには大広間がしかるべく整えられている、
種々様々の国で。

すべてのことにおいて、父なる神は

祝福をあなた方に優しくお与えになつておられる。

あなた方をすべての危害から救われるでしょう、

神は右手で。「ココデ、王タチハ起キアガル。」

(43)

王一 輝く星はわれらをベツレヘムに導いてくれたが、

もつと輝かしいものを夢の中でわたしは見た。

太陽の光りよりも輝くものを。

丁度この場所で天使の姿を見た――

天から落ちて来た美しい花だ。

へロデ王からわれらを引き離してくれたのだ。

天使はわれらの館への帰路を教えてください、

他の王の領地を通る道を。

(44)

王二 わたしも姿を見た。

心も軽く、

家路をたどろう。

力溢れる神が

整えてくれた――

悪魔の支配から守ってくださるのだ。

(45)

王三 われらの神を賛美します。

神は輝く天使をわたしたちに

送ってくださいました。

さあ、眼を大きく開け、

旅路を選びましょう、

古里への正しい道を。

〔ここで、「東方の三博士の礼拝」が終わり、「マリアの清め」に続く。〕